

《基本理念と基本方針》

■ 有識者会議の議論の整理

【ホールについて】

- ①東北地方全体の需要を考えて地域の要となる新たなホールが必要 ((1)-①)
- ②青森市文化会館(2031席)を少しでも上回って東北一の規模とするのはどうか ((4)-⑦)
- ③大ホールはポピュラー音楽など東北を拠点としてホストできる貸館中心に徹した方がよい ((2)-①)
- ④仙台市と棲み分けるために、県民会館はポピュラー・ミュージカル対応のものがよい ((3)-⑤)
- ⑤生ライブ鑑賞需要が拡大することで、ライブを通じた交流人口が増えていこう ((1)-③)
- ⑥ホールの規模、キャパシティーが多いほど集客力につながる ((4)-①)
- ⑦「なんでもできる」をキーワードにしつつ、施設の規模が何のために必要なかを明確にすべき ((4)-②)
- ⑧県の施設として、創造・普及機能を備え、かつ商業的な要求にも応えられるホールが望ましい ((3)-②)
- ⑨アジア等からのインバウンドも含め、国内外からの集客効果を意識すべきである ((5)-②)
- ⑩目まぐるしく変化する社会環境に対応できるような施設をつくるべき ((3)-⑯)
- ⑪更新を重ねながら持続可能なホールとしたい ((3)-⑯)
- ⑫テクノロジーの進化に対応していくことを前提にホール整備を検討する必要がある ((9)-②)

【機能について】

- ①人材育成など市町村への支援機能をもつことで、仙台市との棲み分けができる ((8)-⑥)
- ②市町村のホール施設を担う人材教育の場としての機能を果たすことが必要である ((7)-①)
- ③基礎自治体の施設職員を研修生として受け入れ、制作や学習の機会を作る必要がある ((7)-⑧)
- ④県内各ホールのスタッフ人材育成を県がサポートすることが大切である ((7)-④)
- ⑤裏方の仕事やホール運営について、経験し育成できる場が必要である ((7)-④)
- ⑥貸館事業と同時に自主事業として県内の人材育成などに努めるという両方の機能を持つと、県民全体への還元という形の施設となりやすい ((3)-⑱)

【空間・共用スペースについて】

- ①市民の多くの人たちに開かれた場所であること ((6)-①)
- ②人がそこで歩いたり、会話したりできる、広がりがあることが重要 ((6)-②)
- ③開放性、連続性のあるオープンスペースを設けることが必要 ((6)-⑨)
- ④劇場前に広場があり、その中に様々な機能があるのが理想的 ((6)-⑦)
- ⑤コンサートがない時も人が集まるような機能を持つ県民会館であってほしい((6)-③)
- ⑥ホールがある場所で常に何かが行われていて、人が交流し、体験を通して何か生まれるということも施設整備の一つである ((6)-④)

(1) 基本理念 (キーワード)

- ・アート×エンタテインメント×テクノロジー
- ・先進的・革新的・国際的なエンタテインメントの発信
- ・県民が上質な作品に触れる機会の創出
- ・県民への様々な体験の提供
- ・宮城県内文化施設人材育成拠点、県中核拠点
- ・宮城県の文化カボトムアップ拠点
- ・文化芸術の収集と情報発信
- ・新たなコミュニティ拠点

(2) 基本方針 (キーワード)

【ホールについて】

- 方針1：東北最大の大型総合エンタテインメント拠点**
県民が上質な作品に触れる機会の創出
宮城県民への様々な体験の提供

- ・多ジャンルのエンタテインメントを通して県民の生活を刺激し豊かにする
- ・老若男女、国籍問わず、多種多様な人々に感動を発信
- ・海外や都心で開催される最新イベントを積極的に招聘

- 方針2：最先端の革新的芸術発信・クリエイティブ拠点**
先進的・革新的・国際的なエンタテインメントの発信

- ・時代の流れに対応した世界トップクラスのテクノロジーを駆使
- ・常に進化・変化し続けるクリエイティブシアターの実現

【機能について】

- 方針3：宮城県内文化施設人材育成拠点、県中核拠点**
宮城県民の文化カボトムアップ拠点、文化芸術の収集と情報発信

- ・宮城県内文化施設の文化力底上げ
- ・県内市町村ホールのハブ機能を担う
- ・広域自治体として、基礎自治体ホールの人材育成を支援する
- ・県内文化芸術団体と連携し、ホールの活性化を促す
- ・最新の文化芸術、ライブエンタテインメントの情報の収集と発信

【空間・共用スペースについて】

- 方針4：宮城県民の新たなコミュニティ拠点**

- ・県民が様々な分野のアーティストと関わる機会を創出する
- ・アートと自然が一体化したパブリック空間を演出する
- ・県民の新たな出会い、交流、居場所を提供する